

アシカ *Zalophus japonicus* (Peters)

【選定理由】

かつて日本近海に広く分布し、国内での繁殖も確認されている(伊藤・中村,1994)。1949~1975年の間に8地点13例以上の生息確認と2地点での繁殖が確認されているので絶滅と断定できない(伊藤,1997)。先史時代には三河湾内の複数の地点で生息していたことが確認されているが、南知多町篠島では1887年頃、田原市伊良湖岬では1906年頃絶滅したと考えられる(分布の項参照)。

【形態】

体重 445.3~563.0kg(雄)、体長 2317~2484mm(雄)、1640mm(雌)、尾長 390~489mm、頭骨基底長平均(雄)313.8mm(伊藤・井上,1993)。体毛は雄で暗褐色、雌では灰褐色をしている。吻が長く、小さな耳介をもつ。性的二型があり、雄は雌より顕著に大きい。後肢は体の下に曲げることができる。尾は明瞭で陰茎骨をもつ。頭蓋では眼窩間幅が比較的広く、後眼窩突起と翼蝶形骨孔がある(阿部,2000)。歯式は I3/2, C1/1, P4/4, M2/1=36。上顎第二大臼歯はしばしば欠如する。

【分布の概要】

【県内の分布】

国内では絶滅した可能性が高く、現在は県内に分布していない。伊川津遺跡(田原市渥美地域)、枯木宮貝塚(西尾市)、神明社貝塚(南知多町篠島)では遺存骨が出土している。篠島では1887年頃まで生息しており(出村,1921)、伊良湖岬(田原市渥美地域)では1859年から1906年頃まで生息していたことが確認されている(伊藤・中村,1994)。

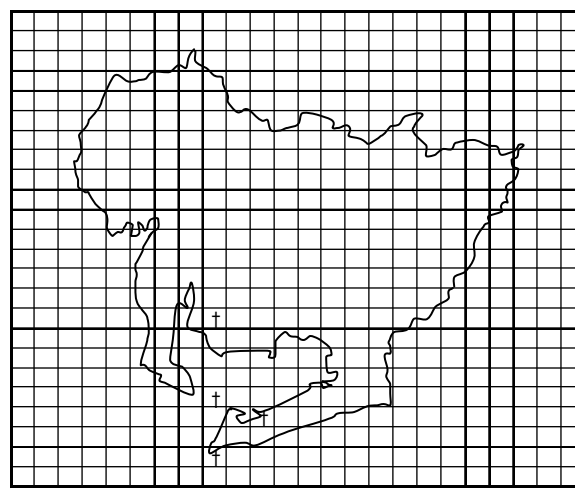
【国内の分布】

日本海側ではサハリン南部から長崎県まで、太平洋側では千島諸島、北海道から宮崎県まで分布していたが、1974年に礼文島で捕獲されたのを最後に生息情報がない(伊藤・中村,1994)。

【世界の分布】

日本近海、ロシア(カムチャッカ、サハリン)、韓国東部沿岸に生息していたと考えられる(Christopher Wozencraft, 2005)。

県内分布図



【生息地の環境/生態的特性】

繁殖地の竹島や伊豆諸島では5~6月に雄は十数頭の雌を率いたハレムを形成し、交尾を行っていた(伊藤・中村,1994)。県沿岸域に継続して生息できる環境は残されていないと考えられる。

【現在の生息状況/減少の要因】

県内では現在絶滅しており、生息していない。アシカは繁殖期に限られた繁殖場でのみ繁殖活動を行う生態的特性をもつことから、こうした場所における狩猟活動が減少の要因としてインパクトが強かったと考えられている(伊藤,1997)。

【保全上の留意点】

1990年代、国内での絶滅は確定しておらず、保全対策として生存個体または個体群の発見と生息調査が提言されていた(伊藤,1997)。現在 IUCN のレッドリストでは絶滅とされ、国際的にも絶滅した可能性が高い(Christopher Wozencraft, 2005)。国内または周辺での生息が続いている場合、愛知県沿岸に漂着する可能性もあり、その場合は厳重な個体保護が必要とされる。また、別種とされるカルフォルニアアシカ(*Zalophus californianus*)の漂着にも注意が必要である。

【特記事項】

県内におけるアシカの分布は伊良湖岬のみが知られていたが、明治年代まで篠島にも生息していたことや県内遺跡からの記録はアシカの生息地として三河湾が重要であったことを示している。

【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.  
Christopher Wozencraft, W., 2005. Order Carnivora. Wilson, D.E. & Reeder, D.M. eds., Mammal species of the world: A taxonomic and geographic reference, pp.532-628. Johns Hopkins University Press, Baltimore.  
出村 銀, 1921. 篠島史蹟, 170pp. 博信社, 名古屋市. (篠島史蹟復刻実行委員会による復刻版, 1979 による)  
伊藤徹魯, 1997. クロアシカ. レッドデータ日本の哺乳類, pp.118-119. 文一総合出版, 東京.  
伊藤徹魯・井上貴央, 1993. ニホンアシカ成獣の体長・体重の復元. 成長, 32 (2): 89-97.  
伊藤徹魯・中村一恵, 1994. ニホンアシカの復元にむけて(9) ニホンアシカの分布の復元. 海洋と生物, 16 (5): 373-393.